

1 研究の概要

(1) 研究主題

確かな学力を身に付けていく、勉強好きな生徒の育成

～一人一人の生徒が主語になれる授業をめざして～

(2) 主題設定の理由

① 新学習指導要領の視点から

令和3年度より完全実施された新学習指導要領では、様々な時代の変化に対応するために必要とされる「生きる力」がより具体化された。そして、それを具現していくための「資質・能力」が、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力や人間性等」の三つの柱に整理された。各教科等の目標や内容についても、この三つの柱に基づく再整理を図るよう提言がなされている。

また、「子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点である『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進することが求められる。」と明記されている。

中学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月）より

② 本校の教育目標から

本校では、「自立 自修」を校訓とし、目指す学校像として、

◇文武両道に励む、誇れる学校

教員に求められる心構えとして、

◇「学貴日新」

ー自ら学び続けて、日に新たなるを貴ぶ
「率先垂範」

ー子どもは、大人のするとおりには育つ
「凡事徹底」

ーすぐやる、必ずやる、できるまでやる
目指す生徒の姿として、

◇4S「Study（学習） Sport（体づくり）
Spirit（精神） Smile（ほほえみ）」を大切にする生徒

などの項目が挙げられている。

また、今年度の学校経営の最重点課題は「学力・学ぶ力の向上」であり、

◇授業のユニバーサルデザイン

◇三つの「わ」のある授業づくり

◇家庭学習、自修日の質の向上

などを共通実践事項としている。

③ 生徒の実態から

昨年度12月実施の秋田県学習状況調査の結果から、学校がある日の勉強時間と平日の勉強時間ともに、「1時間以上」と回答した割合は県平均を上回っており、日常的な家庭学習への取組がうかがえる。しかし、家庭学習の内容には個人差が見られる。ま

た「勉強は大切である」という設問にもほぼ全員が肯定的に捉えている。ICTの活用においても教員にSAMRモデル（先進的な取組例）示し、効果的な活用を教員間で共有したことが、生徒の1人1台端末環境を生かした授業改善にも十分に生かされており、「ふだんの授業ではICT機器をどれくらい使用していますか」という設問では、「ほぼ毎日」「週1回以上」の合計が県平均を大きく上回っている。

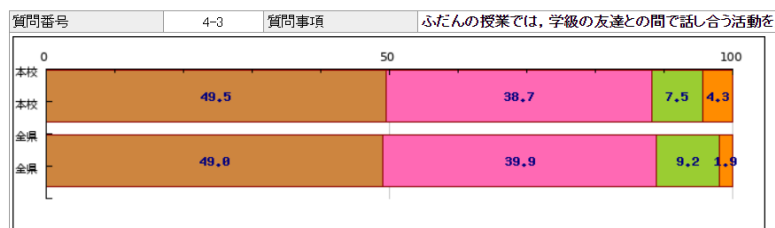
勉強の大切さを理解し、家庭学習、授業ともに前向きに取り組んでいるものの、「勉強が好きだ」としている生徒の割合が全県平均を下回り、各教科の平均通過率においても、一部の教科を除いては県平均を下回る結果となっており、勉強することの意義を自分の成長や幸せにつながることと捉えられていないことが課題として挙げられる。

また、昨年度は、問いを引き出すための導入を工夫するなど、自分ごととして追究できるような学習課題を設定することや、自発的な思考を促す工夫（ユニバーサルデザイン化）を重点とし、生徒が学びの成果を実感できるまとめなどに取り組んできた。しかし「ふだんの授業では、学級と友達の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」という設問や「ふだんの授業では、授業の目標を意識して学習に取り組んでいると思う」の項目では県平均を下回っており、学習内容を自分ごととしての学びとして十分に深めるところまでは至っていない。

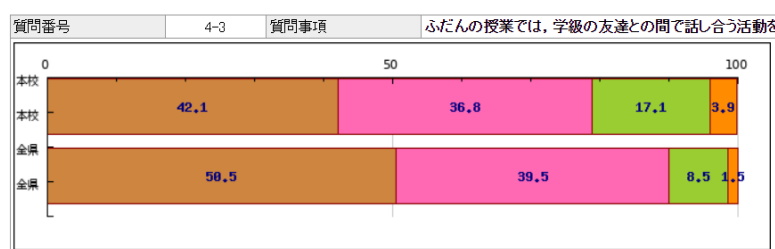
凡例	選択肢
	1. 当てはまる
	2. どちらかといえば当てはまる
	3. どちらかといえば当てはまらない
	4. 当てはまらない

令和5年学習状況調査

「ふだんの授業では、学級と友達の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思う」の割合
1年生



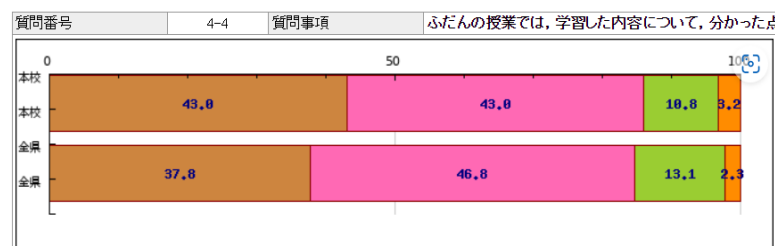
2年生



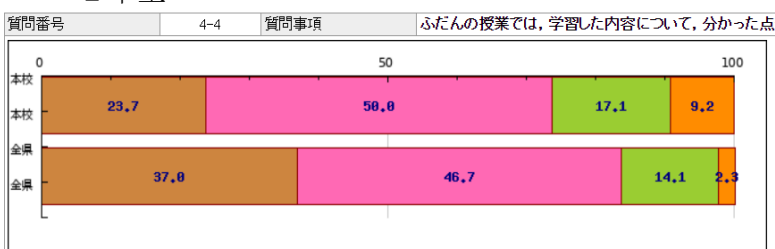
また、「ふだんの授業では、学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると思う」という設問では県平均を下回る結果となっている。

令和5年学習状況調査

「ふだんの授業では、学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習に繋げることができていると思う」の割合
1年生



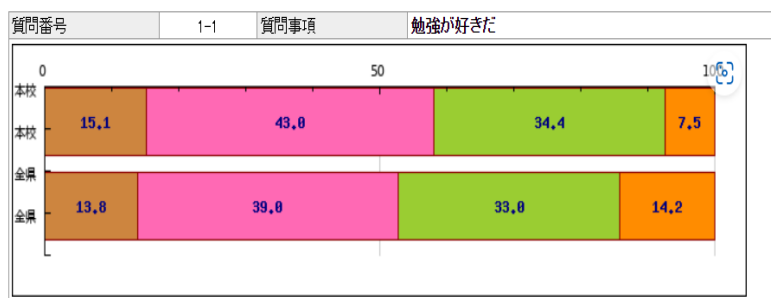
2年生



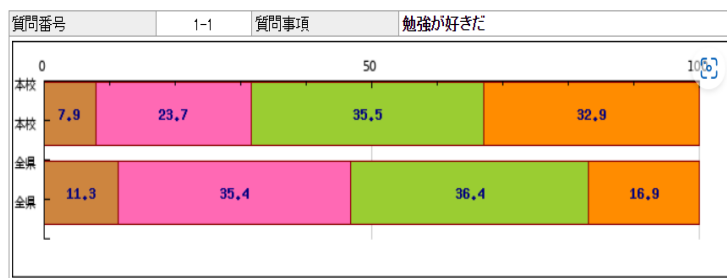
④ 昨年度の成果と課題を踏まえて

今年度は単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、生徒が主体的に学習に取り組めるよう、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして生徒自身が学びや変容を自覚できるようにする。そのための時間をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった観点で授業改善を進める。また、①「何を学ぶのか」「誰と学ぶのか」「どこで学ぶのか」について、できるだけ生徒が選択できる個別・最適な学習を進めていくための授業づくり。②他者と関わりながら、教えあったり、意見を交換したりする時間を設ける授業づくり。③学習を通して、何を学んだのか、何が分かったのか、どのように学んだのか、などを自分の言葉で説明することができる振り返りの場を意識的に設定した授業づくり。の3つの視点での授業を通して学習内容の確実な習得、活用を図りたい。その上で、生徒の「わかった」が「できる」になることで「勉強（幸せになるための努力）が好き」と答える生徒が100%になることを目指したい。

令和5年学習状況調査「勉強が好きだ」の割合 1年生



2年生



凡例	選択肢
	1. 当てはまる
	2. どちらかといえば当てはまる
	3. どちらかといえば当てはまらない
	4. 当てはまらない

今年度も共通実践事項((4)①②に示した⑤の5つの項目)の1つに、「単元や題材、授業における指導のねらいを明確にする」ことを挙げている。生徒が自分ごととして本時のゴールを明確にし、生徒一人一人が自分の言葉で表現する活動を取り入れていく。以上の点を踏まえ、今年度は研究主題を「確かな学力を身に付けていく、勉強好きな生徒の育成～一人一人の生徒が主語になれる授業を通して～」とし、自分の幸せや成長のための努力できる生徒の育成に取り組むこととした。

(3) 研究の仮説

生徒の視点で授業をデザインし、一人一人の生徒が主語になれる授業を重ねていけば、生徒の「分かった」という実感が「できる」という喜びへとつながり、生徒は実生活に生きて働く確かな学力を身に付けながら、勉強（幸せになる努力）が好きな生徒へ成長してくだろう。

（４）研究の重点事項と具体策

① 生徒が自分の興味・関心を追究できるよう、生徒の視点で授業をデザインする。

- ◎単元や題材、授業における指導のねらいを明確にする。
- ・何が分かったのか、何が分からなかったのかをはっきりさせられる振り返りの工夫をする。
- ◎生徒が学びの速さや進め方などを選択できるよう、学習形態を柔軟に取り入れる。
- ◎生徒がＩＣＴの活用場面を自分で選択できるよう、ＩＣＴの文具化を進める。

② 「わかった」が「できる」につながるよう、学習状況を把握し、指導を改善する。

- ◎生徒が学びを自己調整できるよう、学びの過程で相互評価や自己評価を取り入れる。
- ◎生徒が学びの成果を実感できるよう、見取ったよさや伸びなどを褒め言葉で伝える。
- ・家庭学習の取り組み方の色々な手本を示し、自分に合った学習法を見付けられるようにする。
- ・授業の中で話し合う場を設定し、学び合いから「分かる」「できる」を感じられるようにする。

（５）研究の進め方

① 研究授業

指導主事訪問や相互授業参観等、年間を通じ一人一回以上の授業提示の場を設け、学年や教科部の枠を越えた幅広い職員間の情報交換や指導助言により研修を深める。

② 研究推進委員会

毎週１回木曜日の６校時目に時間割内で実施し、スモールステップで改善を行うようにする。

③ 教科の枠を越えた研修

指導主事訪問の際は、教科＋学年部等、教科の枠を超えたチーム毎に授業研究会を行う。そして、研究の視点に基づく研修を深めながら、進捗状況を把握するとともに、成果と課題を全体で共有し、以後の方向性を検討し直す機会にする。

④ 生徒の実態把握

生徒の授業評価アンケート、教師の授業改善の視点に関わる評価をそれぞれ年２回（７月、１２月）実施する。全国学力・学習状況調査及び秋田県学習状況調査や標準学力検査の結果や授業に向かう姿勢などと関連付けて分析した上で、本校生徒の実態について検証し、以後の授業改善に生かす。

⑤ 共通指導事項の検証の改善

黒板の向かって左側に貼り付けした事項をショートスパンで状況確認する。

←（共通指導事項）

	話している人が主役！話し手を大切にしよう。 Level 1 「ひまわり」、話し手の方に顔を向けて話を聞こう。 Level 2 うなずく、メモを取るなど、リアクションしながら話を聞こう。 Level 3 聞いた内容を復唱できるくらい、しっかり話を聞こう。
	自分が主役！役者のように分かりやすく伝えよう。 Level 1 指名されたら「はい」という元気な返事で、主役になりきろう。 Level 2 聞き手を意識して大きな声でゆっくりと、身振り、手振りをつけて話そう。 Level 3 結論をまず先に、根拠を明確にして話そう。
	みんなで学習することの意義を考えよう。 Level 1 疑問があつたら、すぐに質問しよう。 Level 2 つまずきや問いを協力して解決しよう。 Level 3 協力して学習し、考えや意見を深め合おう。